

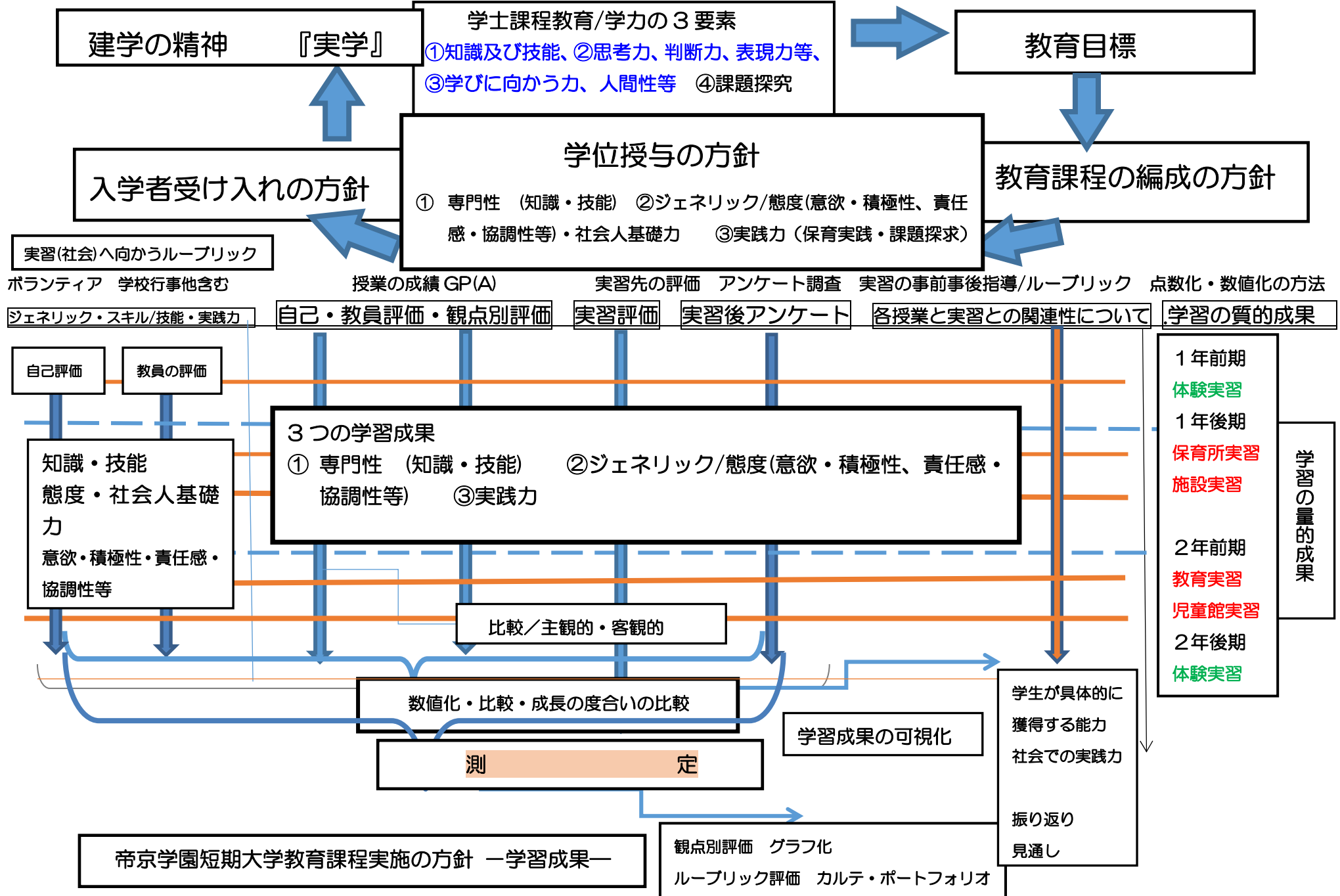
学習成果に係る規則及び基準

帝京学園短期大学 各ポリシーとの関連性 : 建学の精神と三つの教育方針、カルテ・ポートフォリオ

「学士課程教育の構築に向けて」 (審議のまとめ)	建学の精神 (教育目標)	学位授与の方針	教育課程編成・実施の方針	入学者受入方針	ルーブリック評価 カルテ・ポートフォリオ (学習成果の観点)
1. 知識・技能・理解 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連づけて理解する。 (1)多文化・異文化に関する知識の理解 (2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	(2)幅広い知識を身につけ、国際的視野に立って判断ができ (幼児教育に関する専門的知識、技能を修得した人材を育成する)	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけていること	(2)少人数教育による専門科目の履修と個人の習熟度に応じた保育技術の向上を図る教育課程であること(ルーブリック評価・カルテ・ポートフォリオの活用)	(1)保育の分野に関心のあるもの (2)保育の専門職として必要な知識や技術を学ぼうとするもの	1.知識 教養教育 幼児教育・保育について子ども・利用者についての理解
2. 汎用的技能 知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1)コミュニケーション・スキル (2)数量的スキル (3)情報リテラシー (4)論理的思考力 (5)問題解決力	(3)実学を通して創造力および人間味豊かな専門性のある人材の養成を目的とする (社会人として必要な教養と広い視野を身につけた人材を育成する)	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、必要な教養とマナーを身につける。学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて創造性溢れる発表ができる。	(1)豊かな自然環境を活かし、社会人基礎力(ジェネリック・スキル)を修得できる教育課程であること		1.技能 保育・教育の指導に関する基礎的な知識
3. 態度・志向性 (1)自己管理能力 (2)チームワーク、リーダーシップ (3)倫理性 (4)市民としての社会的責任 (5)生涯学習力	(1)努力をすべての基とし、偏見を排し (地域社会に貢献できる人材を育成する)		(3)地域の乳幼児や保護者と交流を深め、体験から学べる教育課程であること	(3)向上心のあるもの	2.ジェネリック・スキル 態度・社会人基礎力
4. 統合的な学習経験と創造的思考力 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力	(3)実学を通して創造力および人間味豊かな専門性のある人材の養成を目的とする (社会人として必要な教養と広い視野を身につけた人材を育成する)	(3)保育の課題を積極的に協働して探究していこうとする意欲をもっていること			3.実践力 課題探求、実習、ボランティア活動

帝京学園短期大学 学習成果/個人

説明図



帝京学園短期大学 カリキュラム図

持続可能な社会

学士課程教育

幼稚園教諭

保育士

キャリア教育

知 識

専門性/コアカリキュラム

技 能

保育・教育についての理解

教育学概論、保育者論、保育原理Ⅰ、子どもと家庭福祉、子ども家庭支援論、社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱ、保育原理Ⅱ、子育て支援

子ども・利用者についての理解

発達心理学Ⅰ・Ⅱ、子ども家庭支援の心理学、特別支援教育論、子どもの理解と援助、教育相談、特別支援教育論、子どもの保健、子どもの食と栄養、子ども家庭福祉、子どもの健康と安全

保育・教育の指導に関する基礎的な知識

子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと表現、保育内容演習(健康、人間関係、環境、言葉、表現Ⅰ、表現Ⅱ、保育内容総論)、教育の方法と技術、教育課程・保育の計画と評価、保育内容総論

教養科目

英語、自然観察、山梨学、日本語表現、情報機器演習
アカデミックスキルズ、キャリア教育、基礎音楽

保育・教職実践演習

実 習

保育実習Ⅰ、Ⅱ、
児童館実習
教育実習

保育技術

大型紙芝居、エプロンシアター、パネルシアター
ピアノ（弾き歌い）、絵本（読み聞かせ）、ペープサート、手遊び、ストーリーテリング、体験実習 など

社会人基礎力

態 度

建学の精神
実 学

教育目標・3つのポリシー

学校行事、委員会活動

ジェリックスキル

入学前教育

選択科目

美術表現、保育技術研究
基礎技能（器楽）
子育て実践演習

ボランティア活動

実 践 力

学習成果の評価方法 / ルーブリック評価

建学の精神

学内第三者評価委員会

第三者評価 / 学外認証機関

本学の教育方法・理念

どういう人材を、どのように育成し、到達点はどこか

入学の理念

シラバス

カルテ・ポートフォリオ

学外評価委員会

各科目

個人 GPA

卒業生

P
D
C
A

2年間の査定
各科目と全体の
流れ

知識・技能
自己評価

卒業生アンケート
保育,幼稚園 園
長・主任先生方
のご意見

年度ごとの
学生の違い

態度・社会
人基礎力
実践力

本人の実習園から
の評価

シラバス検討委員会
FD委員会

P
D
C
A

実習先の評価、就職率

実習終了時
卒業時 卒業後

自己点検評価委員会

学内監査

本学が育てたい保育者像

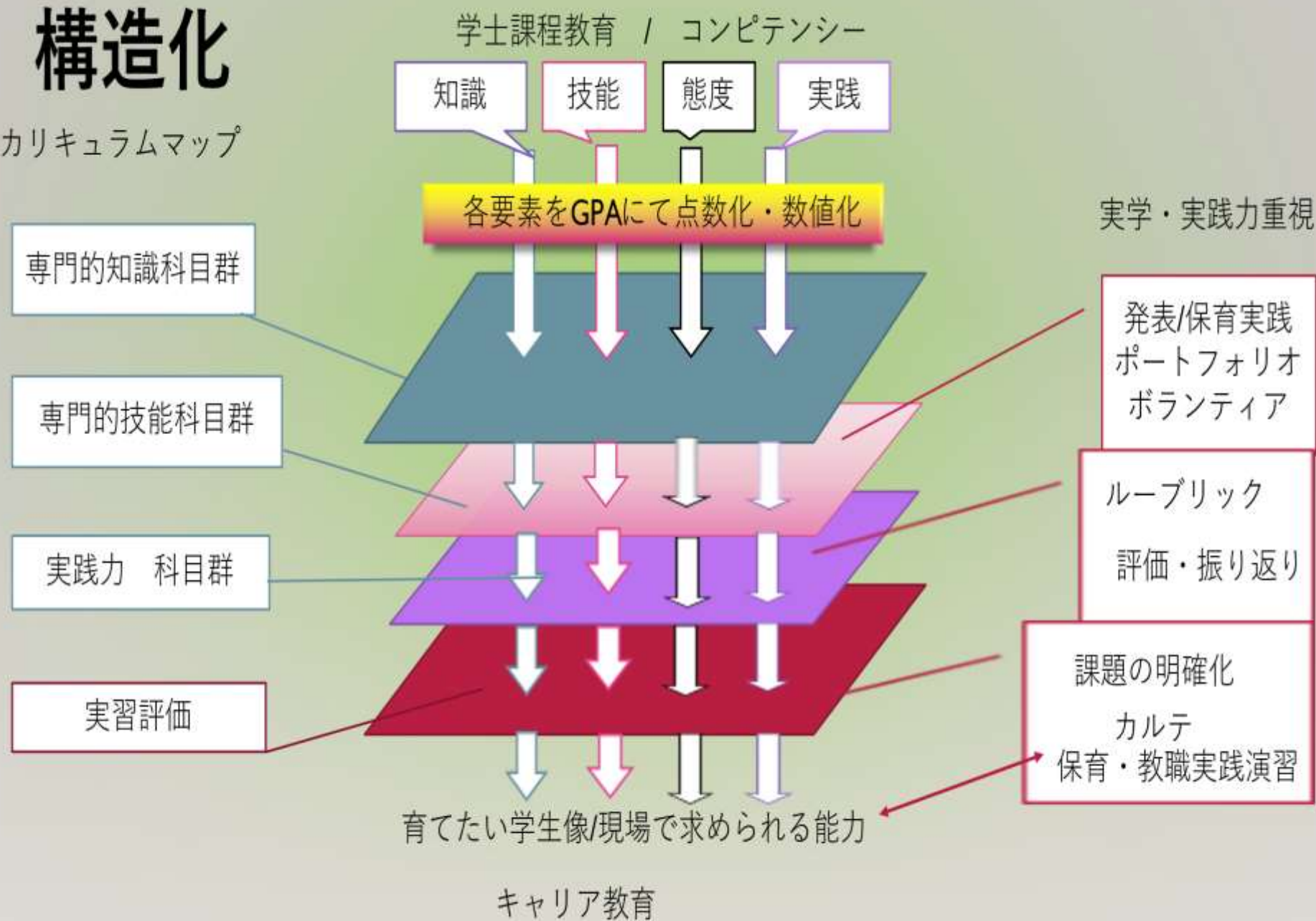
P
D
C
A

建学の精神
教育目標
3つのポリシー
地域福祉に役立つ人材
養成
学士課程教育
キャリア教育

持続可能な社会

構造化

カリキュラムマップ



2021 帝京学園短期大学教育課程実施の方針

—学 習 成 果—

目 次

(キーワード)

背景

【1】建学の精神と3つのポリシー

- 1.建学の精神
- 2.教育課程の編成、実施の方針/カリキュラムポリシー
- 3.卒業認定・学位授与の方針/ディプロマポリシー
- 4.入学者受け入れの方針/アドミッションポリシー

【2】学習成果

- 1.知識・技能
- 2.ジェネリック・スキル
- 3.実践力・実学

【3】査定(アセスメント・測定) / 個人

- 1.GP(A)評価
- 2.ルーブリック評価

【4】査定(アセスメント・測定) / 大学全体

1. 内部質保証-PDCA サイクル
2. 構造

【5】合格基準

2021 帝京学園短期大学教育課程実施の方針

—学習成果—

背景

中央教育審議会は平成 30 年に、〈2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン〉の中で、2040 年に求められる人材像を、「基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち、その知識や技能を活用でき、ジレンマを克服することも含めたコミュニケーション能力を持ち、自律的に責任ある行動をとれる人材」と定義している。そうした人材を育成するために、従来の「何を教えたか」から、学生が「何を学び、身に付けることができたのか」への教育の質の転換が必要であることが今求められている。また令和 2 年文部科学省の「教学マネジメント指針」では、これからの大学教育には「卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（3つのポリシー）」に基づく体系的で組織的な大学教育を展開し、点検・評価を行うことで、不断の改善に取り組むことが必要であり、学生の学習成果に関する情報や大学の教育成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に活用することが必要であり、適切なPDCAサイクルを確立することが求められている。

さらに、大学が在学生や保護者、入学希望者等の直接の関係者のみならず、地域社会、産業界等からなる外部からの声を意識し、積極的に説明責任を果たしていくという観点から、大学全体の教育成果や教学に係る取組状況等の情報を公表していくことが重要とされている。

大学教育が学生個々人の可能性を最大限に伸長する教育に転換して行くためには、カリキュラム全体の構成や、学習者の知的習熟過程等を考慮し、学習者自らが学んで身に付けたことを社会に対し説明し、納得が得られる体系的な内容となるよう構成することが必要となる。

具体的には、生涯学び続ける力や主体性を涵養するため、大規模教室での授業ではなく、少人数のアクティブ・ラーニングや情報通信技術（ICT）を活用した新たな手法の導入が必要となる。

学習の評価についても、期末試験での評価で、学生が一斉に進級・卒業・修了するという形式的なシステムではなく、個々人の学習の達成状況がより可視化されることが必要となる。

現代の予測不可能な時代にあって、大学教育は学習者が自らの可能性を最大限に発揮するとともに、多様な価値観を持つ人材が、協働して社会と世界に貢献していくため「何を学び、身に付けることができるのか」を中軸に据えた、多様性と柔軟性を持った大学教育への転換が今、強く求められている。

こういった背景を踏まえ、本学では数年来教職員一丸となって、建学の精神を下に、時代に即して従来の教育目標及び3つのポリシーを再考し、学生が主体的に学習し対話的で深い学びを、見通しを持って、取り組めるよう学習成果を見直し、その測定方法や内部質保証などの教学活動を再構築することとした。

【1】建学の精神と3つのポリシー

1.建学の精神

本学の建学の精神は「努力をすべての基とし 偏見を排し 幅広い知識を身につけ 国際的視野に立って判断ができ 実学を通して創造力および人間味豊かな専門性ある人材の養成を目的とする」である。『実学』とは、「実際の現場＝社会で役に立つ学問」の意味であり、本学教育の根幹をなすものである。

2.教育目標

本学はこの建学の精神の柱である『実学』に則った教育課程を実施するにあたり、教育目標として、以下の3点を明示している。

- (1) **責任ある**社会人として必要な教養と広い視野を身につけ、**社会の変化に対応する**人材を育成する
- (2) 幼児教育に関する専門的知識、技能を**自ら積極的に**修得し、**豊かな表現ができる**人材を育成する
- (3) **持続可能な社会に向け他者に配慮し、協働して**地域社会に貢献できる人材を育成する

本学は保育科単科の短期大学である。したがって『**本学が育てたい学生像**』としては学士課程教育で求められる人材であると同時に将来保育者として、地域の保育に携わり子育て環境の向上に寄与できる人材の育成が求められている。

この教育目標達成のため、本学では以下の教育課程の編成、実施の方針（カリキュラムポリシー）を定め、学生が学びに向かう教育環境の構築・充実に努めている。

3.教育課程の編成、実施の方針(カリキュラムポリシー)

- (1) 〈社会人として必要な教養と広い視野の養成〉
豊かな自然環境を活かし、社会人基礎力（ジェネリック・スキル）を修得できる教育課程であること
- (2) 〈幼児教育に関する専門的知識、技能の修得〉
少人数教育による専門科目の履修と個人の習熟度に応じた保育技能の向上を図る教育課程であること
（ルーブリック評価の活用）
- (3) 〈地域社会に貢献できる人材の育成〉
地域の乳幼児や保護者と交流を深め、体験**（ボランティア活動など）**から学べる教育課程であること

また、上記の教育環境で学生個人が2年間で修得すべき学習成果を『**本学が育てたい学生像**』として卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に、以下のように定めている。

4.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

- (1) **責任ある**社会人として**他者に配慮し、豊かな人間性と教養や**マナーを身につけていること
- (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を**積極的に**身につけ、**学んだことを工夫して組み合わ**

せ、自ら計画を立て、創造性溢れる発表ができること

(3) 保育の課題を積極的に探求し、協働して解決する意欲をもっていること

(2021 年度改定)

5. 入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

本学では、これに入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー：求める学生像）として、

(1) 保育の分野に関心のあるもの

(2) 保育の専門職として必要な知識や技能を学ぼうとするもの

(3) 向上心のあるもの

※できればインターンシップや職業体験等で、幼稚園や保育所などにおける体験学習を経験していることが望ましい。

(2022 年改訂)

を加え、建学の精神及び各ポリシーと学士課程教育とを関連付けた表を作り公表している。また、これは学生にシラバスやホームページにて周知している。

帝京学園短期大学 各ポリシーとの関連性 建学の精神と三つの教育方針、カルテ・ポートフォリオ 参照

【2】学習成果

本学の学習成果は、『実学』の精神に則り、地域の保育現場で求められている保育者としての人間性の能力の育成や、基礎的な知識や技能を活かした、実践の場で活用できる能力の育成に主眼を置いている。また、学士課程教育で定められた能力を踏まえ、本学の学習成果は、建学の精神と卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を基に、以下の3つの枠を定めている。

1. 専門性

2. ジェネリック・スキル

3. 実践力

この3つの枠はより具体的に、それぞれの『観点(コンピテンシー)』として以下のように定められる。

1. 専門性には『知識、技能』の能力の修得が求められる。

2. ジェネリック・スキルでは社会人・保育者としての資質に関わる『態度・社会人基礎力』の能力の修得が求められる。

3. 実践力としては、1. 専門性『知識、技能』と2. ジェネリック・スキル『態度・社会人基礎力』の能力を統合し、主体的で対話的な学習態度に加え、思考力や表現力などの育成を通じた深い学びにより修得した『実践力』が求められる。

本学の学習成果は、まず将来保育者となるための豊かな人間性を育む教養教育を基に、基礎的で専門的な『知識・技能』の内容が、1. 専門性としてコア・カリキュラムに設定される。学生は、コア・カリ

キュラムで卒業要件必修や幼稚園免許や保育士資格取得に係る開設科目を履修し、基礎的な知識や技能を修得することができる。

また、同時に保育現場で求められる保育者としての資質である—主体的に学習に取り組む態度など—の能力を2.『ジェネリック・スキル/態度・社会人基礎力』として定め、社会人として保育者として必要な資質を身に付ける。そして実際に知り得た知識や技能、態度や社会人基礎力を用いて実際に3.『実践力』を修得することができる。

構造化は、この1.専門性『知識・技能』、2.ジェネリック・スキル『態度・社会人基礎力』（資料にはジェネリック・スキルと表記）、3.『実践力』が本学で開講する全ての科目にコンピテンシーとして含まれていることを示している。またシラバスの「学習成果との関連」のところでは、各科目に、この1.専門性『知識・技能』、2.ジェネリック・スキル『態度・社会人基礎力』（シラバス内では、枠の都合で態度と表記）、3.『実践力』がどのような割合で含まれているか示している。この3つのコンピテンシーを含む内容でシラバスを作成することが重要である。

※以下1.専門性『知識・技能』は、『知識・技能』、あるいは『知識』、『技能』と、また2.ジェネリック・スキル『態度・社会人基礎力』は、『態度・社会人基礎力』、または『態度』、『社会人基礎力』と記載することがある。また2.は『態度』と簡略化する場合もある。さらに3.『実践力』は、『実践力』のみ記載することがある。

構造化参照

本学の開講する全ての科目はこの3つのコンピテンシーの『知識・技能』、『態度・社会人基礎力』、『実践力』の合計得点が、各期の終わりに試験の結果（素点）として測定される。そしてこれはGP(A)に変換することができる。

さらに、素点として表された得点は、『保育・教育についての理解』、『子ども、利用者についての理解』についてGP(A)の理解度として分類することができる。演習系、実技系科目は『保育・教育の指導に関する基礎的な知識』に分類され、どの科目群の理解度が高いかあるいは低いかをGP(A)の数値を用いて測定することも可能である。

なお、本学は保育者養成の単科の短期大学であり、保育者養成には実習が義務付けられている。それぞれの実習は、本学の保育者養成教育の集大成であり、上記の『知識・技能』、『態度・社会人基礎力』、『実践力』の学習成果を統合した科目と位置付けている。

【3】 査定(アセスメント・測定)/個人

学習成果査定の経緯

学士課程教育では、「統合的な学習経験と創造的思考力」の修得が求められている。

これは、これまでに獲得した『知識・技能』、『態度・社会人基礎力』、『実践力』を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力である。さらに新学習指導要領等においては「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられている。また幼稚園教育要領などにも「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な

状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることの基礎的な能力」の育成が求められている。

本学では学生が、子どもたちや保護者、行政や関連する組織との連携を図り、学習した知識や技能を用いて、これからの実習や社会生活で積極的に「新たな課題に取り組むことができる能力の育成」を目指している。

本学は、学習の基礎に教養教育を開設し、専門科目群を学び、さらに選択科目やボランティア体験や実習などの活動を通して、新たに獲得した知識や技能が、既存の概念と組み合わせられ、態度や実践力などと構造化され、体系化されていくキャリア教育のプロセスこそが、本学が目指す学習成果であると考えている。

帝京学園短期大学カリキュラム図参照

本学の個人の学習成果の達成度や課題に関しては、科目横断的に『知識・技能』、『態度・社会人基礎力』、『実践力』について測ることができる。

帝京学園短期大学 学習成果/個人 説明図 参照

しかし、本学においては学習成果を**定点的な測定結果**として捉えるだけではなく、「これまでに獲得した『知識・技能』、『態度・社会人基礎力』、『実践力』を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」と考えている。新学習指導要領等においては「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられていることを重視し、上述の基礎的な能力を、学外の関係者と連携して、課題を解決するために工夫していく能力の育成が重要である。従って本学は、学習成果の測定方法として、GP(A)の定点評価では十分ではないと判断した。学生が修得した『知識・技能』、『態度・社会人基礎力』、『実践力』を、実習（や社会）で実際に生かす力、即ち、『実習（社会）に向けての3.実践力』を育成することが、建学の精神に掲げる『実学』に繋がる。

本学の学習成果には、実習（社会）で、自主的に課題を見出し、周囲の他者とコミュニケーションをとりながら、課題解決のための見通しをもって計画を立て、協働しながら、責任感をもってその過程や結果を表現していく力が求められる。そのためには、保育現場やボランティア活動や地域活動の中で、仲間やさまざまな人達の意見に耳を傾け、素直に話を聞き、分析をして、思考する「主体的で対話的で深い学び」としての『実習（社会）に向けての『知識・技能』』、『実習（社会）に向けての『態度・社会人基礎力』』、『実習（社会）に向けて統合された『実践力』』の能力が必要である。ここで言う『実習（社会）に向けて』の能力とは、文部科学省が新学習指導要領の中で言う「見方、考え方」とほぼ同義であり「**深い学び**」を**獲得する道筋**を示すものである。（※なお、本学は保育者養成の単科の短期大学であるため、ここで言う社会は、主に実習や保育現場を指すものとする。実習に不合格、または進路変更の場合は、ボランティア活動や実践的な選択科目を対象にして考えていく）

しかし、この道筋を単純な数値で表すのはなかなか困難である。従って本学はこの過程を、**ループリック評価として設定**し、新たに整理して【実習に向けての『知識』】、【実習（社会）に向けての『態度』・『社会人基礎力』】、【実習に向けて統合された『技能・実践力』】の能力が、それぞれに道筋を立て、その到達度を5段階評価によって測定できるようにした。

【実習に向けての『知識』】は、各科目の知識の修得にとどまらず、実習（社会）で活用できる能力を各教科で**共通に意識づけるループリック**となっている。

また【実習（社会）に向けての『態度』・『社会人基礎力』】は、自主性や責任感を持って取り組み、周囲の他者の意見を素直に聞き入れ、様々な社会の人々と協働できる能力や、ストレスに対応できる能

力を実習や社会で活用できる能力として**意識づけて**いる。保育者として、社会人として身に付けるべき内容を**道筋**として表し、自分がどの段階にあり、**課題や見通し**が何であるか理解できるようにしている。

最後に、【実習に向けて統合された『技能・実践力』】は、従来『技能』を活かした『実践力』が領域として接近していることより、専門性の『技能』と『実践力』を統合し、保育現場で創造的な表現ができるよう、**実習での実践へと導く評価段階**を設定している。

これらのルーブリック評価は、各学期終了後、成績結果を学生に伝え面談する際に、学生と教員が相互に記載し、その乖離を考えることで、学生の課題を見出そうとするものである。また、実習評価そのものについても、本学の中心的な実践学習であることから、実習評価表に合わせて具体的で、詳細なルーブリック評価を行っている。実習終了後、教員は実習結果を、面談時に伝える際に、学生の課題を見出すために使用している。上記の【実習に向けての『知識』】、【実習（社会）に向けての『態度』・『社会人基礎力』】、【実習に向けて統合された『技能・実践力』】は相互に関連し合い、実習評価の詳細なルーブリックに集約されている。

教育実習成績評価表、保育実習Ⅰ・Ⅱ(保育所成績評価表、保育実習Ⅰ(施設)成績評価表、保育実習Ⅲ(児童館)成績評価表、書式参照

教育実習(幼稚園)ルーブリック評価表、保育実習(保育所) ルーブリック評価表、保育実習(施設) ルーブリック評価表、保育実習(児童館) ルーブリック評価表 参照

このように本学は、3つのポリシーの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に関連した学生個々の学習成果を、多面的に測定し、量的・質的データとして可視化し、学習成果の到達度を測定できる仕組みを確立している。

さらに本学は、『育てたい保育者像』実現ための学習の成果を測定する(アセスメント)の具体的な方法を、本学の学習成果の合格評価基準(後述)として公表している。

以下、個人の学習成果を測定する方法としての GP(A)による測定方法と、学習の進捗や課題を明確にするために有効であるルーブリック評価方法を、ディプロマポリシーと関連付けて具体的に示す。

本学の学習成果（ディプロマポリシーと関連）

□専門性/知識・技能 — GP(A)評価 分布図

学習成果の1.専門性は、コンピテンシーとしては『知識・技能』の修得である。

これはディプロマポリシーの(1) **社会人として必要な教養やマナー**、(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を**積極的に**身につけ、に該当する。幼児教育に関する専門的『知識・技能』に該当することがディプロマポリシーと関連している。また (1) **責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養やマナー**を身につけていることは、『ジェネリック/態度・社会人基礎力』の修得を目指すものである。さらに (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を**積極的に**身につけ、**学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立て、創造性溢れる発表ができること**。(3) 保育の課題を積極的に探求し、**協働して解決する**意欲をもっていることは、『実践力』と関連している。

これらは、本学が開講する科目の中で、履修した科目の成績として測定される。測定された素点は、GP(A)に変換される。教養教育を基礎とした専門的な知識・技能科目（講義・演習系科目）では、『知識・技能』の理解度を、『保育・教育についての理解』、『子ども・利用者についての理解』、『保育・教育の指導に関する基礎的な知識』に分けている。その理解度はそれぞれ定期試験で測定し、各科目群はそれぞれの理解度を学期末ごとに5段階のGP(A)の平均値として領域ごとの理解度を測っている。自己の能力の中で達成度の高い能力や習熟度が低い能力が、理解できる。

本学で開講する全ての科目には『知識・技能』、『態度・社会人基礎力』、『実践力』がコンピテンシーとして含まれている。またシラバスの「学習成果との関連」のところでは、各科目に、この『知識・技能』、『態度・社会人基礎力』、『実践力』がどのような割合で含まれているか示している。各科目はその3つのコンピテンシーを含む合計の点数（素点）として、GP(A)に変換される。また、GPAは分布図として表される。

2021年度 GPA 参照

なお、専門性の基礎となる教養科目については、教育目標3. **持続可能な社会に向け他者に配慮し、協働して**地域社会に貢献できる人材を育成することに該当し、持続可能な社会を築くためのキャリア教育の基礎となる〈日本国憲法、自然観察、日本語教育、英会話、情報機器演習、アカデミックスキルズ、キャリア、基礎音楽教育〉などが本学では開設している。この教養教育においても単に知識の修得のみを目指すのではなく、知り得た知識をどのように専門科目に統合し、実際の社会で活用できるかが問われている。そのため、教養科目についても、専門的な知識・技能と同様に、GP(A)の算出のみならず、【実習に向けての『知識』】のルーブリック評価を用いている。

専門性「知識」ルーブリック評価表参照

加えて本学が独自に開設する〈保育技術研究、美術表現、子育て実践演習〉は、修得した知識・技能を活用して地域子どもたちや保護者と連携して、社会人として同時に保育者の資質を高められるよう【実習に向けての統合された『技能・実践力』】のルーブリック評価を活用して、学生と教員が課題を共有できる。学生は学期末ごとにカルテ・ポートフォリオに学生個々の現状を自ら記入するとともに、教員も客観的な視点から同じルーブリック評価表に記入する。その乖離が課題となる。

専門性「技能・実践力」ルーブリック評価表参照

□ジェネリック・スキル/態度、社会人基礎力 — ルーブリック評価・5段階評価

学習成果の【社会（実習）へ向けての『態度』】・【社会へ（実習）向けての『社会人基礎力』】について、それぞれ5段階のルーブリック評価を導入している。その成果をルーブリックに示された具体的な項目に照らし、現状での状況の把握や次に取り組むべき課題が明確となる。学生は学期末ごとにカルテ・ポートフォリオに学生個々の現状を自ら記入するとともに、教員も客観的な視点から同じルーブリック評価表に記入する。その乖離が課題となり各評価基準を達成しない場合には、補講等を実施し基準を達成するための支援を行っている。

ジェネリック「態度」ルーブリック評価表参照

ジェネリック「社会人基礎力」ルーブリック評価表参照

□実践力 — ルーブリック評価・5段階評価

ここでは実習の評価、卒業及び資格・免許取得に係わらない科目である選択科目や学校行事やボランティア活動も査定の対象となる。

『実践力』に関しては、ディプロマポリシー（2）幼児教育に関する保育技能を自ら積極的に身につけていること（3）保育の課題を積極的に探求し、協働して解決する意欲をもっていることに関連している。【実習に向けての『知識』】、【実習（社会）に向けての『態度』・『社会人基礎力』】、【実習に向けての統合された『技能・実践力』】のルーブリック評価として、卒業時に以下のように、カルテ・ポートフォリオでまとめられる

1. 【実習に向けての『知識』】、【実習（社会）に向けての『態度』・『社会人基礎力』】、【実習に向けて統合された『技能・実践力』】をルーブリック評価として、また【実習に向けての『知識』】では、『保育・教育についての理解』、『子ども、利用者についての理解』についての理解度として分類し、GP(A)分布で表す。（カルテ）

2021 年度入学生 学習成果 知識の平均 参照

2021 年度入学生 学習成果 ジェネリック・スキル(態度)の平均 参照

2021 年度入学生 学習成果 ジェネリック・スキル(社会人基礎力)の平均 参照

2. 【実習に向けて統合された『技能・実践力』】の具体的な能力向上を目指すため、本学では、大型紙芝居、エプロンシアター、パネルシアター、ピアノ（弾き歌い）、絵本（読み聞かせ）、ボランティア活動、選択科目の履修を、保育技術の獲得のため、各授業の課題としている。ポートフォリオでは、6つの内容を選び、実際に作製したものを演じ、動画で記録して、YouTube に配信している（限定公開）。これは数値として測定しにくい『技能・実践力』を ICT の技術を使って、可視化できるようにしたものである。本学では、各技能の発表などについては、保育技能獲得時期を2年間の実習時期に合わせて設定し、事後に【実習に向けて統合された『技能・実践力』】のルーブリック評価を行っている。（ポートフォリオ）

2021 年度入学生 学習成果(技能・実践力)の平均

なお、本学では幼児教育に関する専門的知識と保育技能に関しては、ディプロマポリシー（2）に自ら積極的に身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立て、創造性溢れる発表ができる能力の必要性を記載している。

本学では、自主的で体験的な実習やボランティア活動を制度化している。自らが学ぶ意識をもって自己開拓し、空き時間や土日を使って学習する機会を作ることとしている。その際ディプロマポリシー（3）保育の課題を積極的に探求し、協働して課題に取り組む意欲をもっていることを、強く意識するように指導している。実際の現場での責任ある態度については、ディプロマポリシー（1）には責任ある社会人として他者に配慮する力を身につけられるように、と記載されている。

学内では、こういった自主性の高い活動に対して、時間割などを調整している。

また結果として、保育者以外の就職を希望する学生や、表現などに特化した学びを深めようとする学生に対しては、選択科目の修得のほか地域の子どもたちの前での発表や、学内の委員会業務なども同等に評価する基準を定めている。

さらに、保育・教育実習については、実習は本学学生にとって、学びの集大成とも言うべきものであり、本学は事前に実習ごとに学ぶべき知識や技能、態度を表にまとめ、学生に周知している。

実習終了後には学生個人の GP(A)の分布とルーブリック評価をカルテ・ポートフォリオとしてまとめ、実習で求められている知識や技能、態度を深く認識できる態勢を作っている。外部評価である客観的な実習評価では、具体的に詳細なルーブリック評価を活用している。課題となっている点や不足している内容については、事後指導や〈保育・教職実践演習〉などの授業を通して学生が授業や実習、発表を振り返り、次の学びにつなげ、深い学習のプロセスを獲得するための資料としている。

各授業との実習との関連性について(2021 年度入学生用)参照

【4】 査定(アセスメント)/学科 (大学全体)

査定(大学全体)の考え方

本学では保育者養成課程であることから、教育課程については法令を遵守するとともに、教育内容や実施方法が、学内の一部の教員の判断に偏らないように常に「大学評価委員会」などで話し合いを行っている。また学年末には、学生の授業アンケートを実施している。「シラバス検討委員会」では、授業内容をより良いものにするために、授業評価などをもとにシラバスに学生の意見を反映させている。この取り組みは、専任教員ばかりではなく非常勤教員を含めて行っている。

さらに学生個人の学習成果及びその測定方法/査定と並んで学校全体(単科)での教育目標や3つのポリシーの在り方、カリキュラムマップなどについても「実習連絡協議会」や「学外評価員委員会」を組織し、学生が実際に実習し、就職する保育現場が求める姿＝学習成果と合致しているかを査定している。また学習成果の測定/査定方法、実習の実施方法、学校運営に関する事柄を、学生や保護者に説明するだけでなく、広く学外のステークホルダーにも意見を説明する機会を設けている。

本学は、こういったアンケート調査や協議会を開催してその結果を公表するとともに、さまざまな意見を参考に本学が定める PDCA サイクルを活用して教育内容の改善・充実を図っている。こういった活動を通して本学は、社会に対してのアカウンタビリティに努めるとともに、内部質保証体制を確立し、地域に求められる質の高い保育者養成教育機関を目指している。

帝京学園短期大学 内部質保証 査定の構造化・可視化・明確化 参照

以下は、具体的な取り組みを記述する。

査定(大学全体/内部質評価)

□各種アンケート調査

1.授業アンケート・・・1, 2年生対象。前・後期授業終了後シラバスをもとに授業内容の確認と、学生の授業に対する意見聴取を行っている。教員は PDCA サイクルを用いて学生の意見をもとに内容の改善を図っている。その結果は学期末の専任教員と非常勤講師とによるシラバス検討委員会にて話し合われる。

2021 授業評価結果 参照

2.単位取得率・・・学則に定められた履修科目の取得単位数や成績の GPA を確認して、進級や卒業の際の資料とする。また観点/コンピテンシーごとに数値化することで、学生個人の苦手な観点が明確になる。年度末に、「進級・卒業判定委員会」並びに実習は派遣可否会議などで話し合われる。

2021 年度 GPA 参照

3.実習後アンケート・・・本学では実習終了後、学生に対して実習中の課題や事前事後指導に関する調査を行っている。

2020 入学生自己評価・実習先評価の比較

4.就職率・・・卒業生の就職状況を数値化し、本学教育の成果としている。

5.学生生活アンケート・・・毎年1、2年生に対して年度末に学生生活を送るうえで、施設や教職員に対する感想を調査している。

2021 学生生活アンケート結果参照

6.卒業生調査・・・卒業した学生に対し、実際の就職した保育所や幼稚園で必要とされる資質や能力について調査している。

7.就職先調査・・・卒業生が就職した保育所や幼稚園の園長などに本学在学時により学習すべき内容について調査している。

8.高大接続改革に関するアンケート・・・高校を卒業し、本学に入学した学生に対して本学を選択した理由など調査している。

高大接続改革に関するアンケート調査結果 2021 参照

9.外部アンケート

(ア) 私立短期大学基準協会主催・・・在学生に対し、学習時間や学校に対する意識調査をしている。全国規模での調査であるため、客観的な調査結果が期待できる。在学生、卒業生を対象にして調査を行っている。

短期大学生調査結果 2021 参照

(イ) 進研アド・アンケート・・・高校を卒業し、本学に入学した学生に対して本学を選択した理由などを調査している。その他入学時の悩みや、課題などについても全国的な規模で調査している。

進研アド・アンケート結果 2021 参照

□内部委員会

1. 学生との協議会・・・2021年度実施した。学生委員会のメンバーに対し、本学の新たに設定した学習成果を説明した。また学校生活を送るうえで、学生生活のアンケートをもとに希望を聞くとともに意見交換を行った。

2. シラバス検討委員会・・・学年末に授業アンケートをもとに、1年間の授業内容を振り返る。各授業間のシラバスの調整や学校運営上の課題などを非常勤講師も含めて話し合う。

3. 自己点検評価委員会・・・1年を通した教職員の委員会などの中で、カリキュラム構成や授業内容、安全対策、学生対応など学校運営上の諸問題の実施状況などを適宜話し合い、自己点検を行っている。

4. 大学評価委員会・・・1年を通した教職員委員会などで、時間を割きながら、第三者評価に向けての準備等を行う。

5. FD、SD 活動

① FD 活動・・・毎年教員が順番に授業を他の教員に公開し、授業終了後意見交換を行う。授業方法の工夫や、改善に役立てる。また、年度によっては外部講師を依頼し、直近の保育課題などに関し教員が講義を受ける。2021年度は、学習成果に関するもの、教職員免許法施行規則に関わるものなどを行った。

② SD 活動・・・職員、教員がそれぞれ関連する部署の講習会などを通して、情報を入手し、学内全体のスキルアップを目指す。2021年にはICT化についてなど説明会を行った。

□外部委員会

1. 実習連絡協議会・・・実習については保育所、施設実習、幼稚園の実習の担当者などと連絡協議会

を開催し、実習期間、実習内容や評価基準などについて事前に確認するとともに実習についての諸課題について意見交換をしている。

2. 学外第三者評価委員会・・・実習や就職で日ごろからお世話になっている保育所、施設、幼稚園などの園長・施設長を中心に、外部評議委員を委嘱し、本学の養成教育全般について資料を基に審議していただく。2021年度は改定した3つのポリシー、学習成果や実習についての意見を頂戴した。

3. 高校と連絡協議会・・・帝京大学グループでは、毎年本学に入学する高校の進路担当教員に対し、グループ全体の方針や各学部・学科の説明会を開催している。その際、本学も本学の教育内容や〈アドミッションポリシー：求める学生像〉育てたい学生像、就職状況などを説明している。

□内部監査

1. 学務監査・・・グループ内の職員が月に1回本学を訪れ、本学教育の実施内容の確認をするとともに、課題を見出し、改善に資する意見を頂く。

2. 会計監査・・・本学の会計処理に関して、適切に処理されているか定期的に監査が行われている。

3. 後援会総会・・・毎年1回、学生の保護者の代表数名を選出し、本学の教育方針や学内での諸問題について説明し、意見を交換している。授業参観をすることもある。

【5】合格基準

本学では、本学が定めた学習成果に対して、以下の合格の基準を設けている。

□専門性 知識・技能 （教養科目、講義、演習、実技科目）修得評価基準

卒業及び資格・免許取得については、次の通りである。

・卒業の基準

卒業には卒業要件必修科目の全てについて **C以上** の評価を必要とする。GPA 2以上
学習の評価は「帝京学園短期大学学則第5章教育課程及び履修方法等第23条、24条」に定める通りとする。

・保育士資格、幼稚園教諭免許状、その他本学で取得可能な各資格等の修得評価基準

保育士資格取得及び幼稚園教諭免許状取得、その他本学で取得可能な各資格等に必要な科目について **C以上** の評価を必要とする。

□ジェネリック・スキル/態度・社会人基礎力 修得評価基準

・ジェネリック・スキルの教員評価

本学卒業までに、総合的な評価として全ての項目について「**3以上**」を目標とする。

平均で「**4以上の**」の評価を受けた学生には、優先的に就職を斡旋する。

・ジェネリック・スキル/態度・社会人基礎力の自己評価

ジェネリック・スキルについても自己評価を実施する。自己評価については各項目について、「3以上」の評価を最低目標とする。学期ごとに課題をグループ教員と共有し、より高い評価を行えることを目標とする。

□実践力 評価基準

1. カルテ・ポートフォリオ / 授業成績評価、実習成績評価、ジェネリック評価（下記別記）・・能力・実践力評価 / 修得基準

【実習に向けての『知識』】、【実習（社会）に向けての『態度』・『社会人基礎力』】、【実習に向けての統合された『技能・実践力』】のルーブリック評価表を使って自己評価と教員による客観評価基準「3以上」を目標とする。また【実習に向けての『知識』】では、『保育・教育についての理解』、『子ども、利用者についての理解』についての理解度として分類し、GP(A)分布で表す。

・演習・実技系授業成績評価

授業成績評価については【実習に向けて統合された『技能・実践力』】のポートフォリオの観点で各学期で「3以上」であることを最低目標とする。

・実習成績評価基準

実習成績評価については評価表の「2以上」の評価であることを最低目標とする。

カルテを作成し、【実習に向けての『知識』】では、『保育・教育についての理解』、『子ども、利用者についての理解』それぞれに各学期で「3以上」の評価を目指す。【実習（社会）に向けての『態度』・『社会人基礎力』】についても各学期で「3以上」の評価を目指す。

・自己評価基準

自己評価については各項目について、上記カルテ・ポートフォリオのルーブリック評価で、自己評価項目の「3以上」を最低目標とする。

ただし、他者（教員や実習先の指導者など）からの評価との関連も考えつつ、自分の能力に対して課題を見出し、学期ごとにより高い評価を行えることを目標とする。

2. 実習派遣の許可基準

「実習【教育・保育実習】を許可する条件」の定めるとおりとする。ただし、派遣許可を見送る学生に対しては、以下①～②の要領で実習期間中の授業を活用した特別補講を実施し、許可基準を満たすための補填を行う。

- ① 実習期間中、当該「実習」に関する授業を活用し、実習実施に向けて必要な学習（日誌、指導案の指導）を行う。
- ② 実習期間中、その他の実習に関する授業の時間を活用して派遣見送りの要因（成績、欠席回数）となった授業の担当教員より課題を受け、取り組む。

3. 選択科目履修・体験実習・ボランティア活動の修得基準

本学ではディプロマポリシーにおける実践力の修得のために、卒業要件必修科目、ならびに保育士資格、幼稚園教諭免許状、その他本学で取得可能な各資格等の科目（選択必修科目、選択科目を含め短期大学卒業に必要な62単位以上）内で、①選択科目を2単位以上取得する（演習、実技系科目が望ましい）、また②保育所、施設、幼稚園などに4単位分以上の自主的な体験実習を行うこととする。ただし、下記の①～③までの組み合わせは自由であるが、事前に担当教員と十分な打ち合わせが求められる。またこれ以外にもボランティア活動にも積極的に参加することが、奨励されている。

① 選択科目を履修の場合の修得基準

修得評価基準は他の科目修得の際と同様のC以上の評価を必要とする。GPAは2以上を目指し

学習の評価は「帝京学園短期大学学則第5章教育課程及び履修方法等第23条，24条」に定める通りとする。

- ② 保育所、施設、幼稚園などに実習を行う場合は、綿密に計画を立て、実施すること。

詳細は別に記載

- ③ 授業で製作したものを地域のボランティア活動などに参加して、発表する。

学校行事 学内ボランティア活動

①～③は、時間数及び実施内容（写真やビデオなどのエビデンスを添えて）をポートフォリオに記載すること。その際ルーブリックの【実習に向けて統合された『技能・実践力』】のポートフォリオの観点の技能内容に沿った自己評価と担当教員の評価を提出すること。ルーブリック内の評価が「3以上」であることを最低目標とする。

ジェネリック/態度 ルーブリック評価表

保育者としての必要な資質（評価表と共通）	項目	1	2	3	4	5
	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	挨拶ができる	明るく挨拶ができ、適切な言葉で対応できる	明るく挨拶ができ、適切な言葉で対応し、服装などが学生らしい	明るく元気に挨拶ができ、適切な言葉で対応し、服装などが学生らしい。礼儀をわかまえている	明るく元気に挨拶ができ、適切な言葉で対応し、服装なども学生らしく、礼儀をわかまえて行動できる
	素直さ・協調性	素直である	素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾けることができる	素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られる。	素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる	素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、課題を見出して話し合い、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる
	意欲・積極性・責任感	積極性がある	積極的に自らの役割を見つけ活動することができる	率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内に取り組むことができる	率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内にこなしながら活動に取り組むことができる	率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内に責任感を持って取り組み、課題を終えることができる
	協働性の理解	聞いたことを忘れずに、他者に伝えられる	聞いたことを忘れずに他者に連絡し、わからないことを相談できる。	聞いたことを忘れずに、誤りがなく他者に連絡し、わからないことを相談しながら活動ができる	集団において他者に正確に報告、連絡し、不明な点は相談ができ、協働性を理解している	集団において他者と正確な報告、連絡、相談ができ、協働性を理解して、チームワークで課題に取り組むことができる

ジェネリック/社会人基礎力 ルーブリック評価表

社会人基礎力（社会人として必要な資質）	観点	項目	定義	内容	ガイドライン
	前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組む力	指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む	自分で考えて活動を進められる。 「できません」と言わずに取り組める。 自分から進んで動ける。
		働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かす	積極的にクラス活動に従事できる。 まわりと助け合って取り組める。 確認や質問をしながら活動を行える。
		実行力	目的を設定し、確実に行動する力	言われたことをやるだけでなく、自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む	自分の意見を提案できる。 自立的に活動に取り組める。 目的をよく考えて行動したか目上の人に敬語で話せる。 素直に指示を聞くことができる。
	考え抜く力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する	必要な情報と必要ではない情報をきちんと区別できたか。 プロセスを自ら考え、実行できるようになったか。 確認や見直しを行い、ケアレスミスを未然に防いでいるか。
		計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最善のものは何か」を検討し準備する	問題点を整理して行動できる。 重要となるポイントを優先して行動できる。 事前に計画を立てて、期限内に完成できる。
		創造力	新しい価値を生み出す力	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を探る	課題の目的に沿って、創造的に作品を作製しようとしてすることができる。 参考文献や関連する資料から新しい成果物を作製できる。 比較や分析だけでなく、自分の考察を交えて成果物を作製できる。
	チームで働く力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらえるように的確に伝える	発表時において、論点を整理してわかりやすい説明ができる。 必要な情報を伝えられる。 報告・連絡・相談をする習慣を身に付けられた。
		傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す。	ほかの人から必要な情報を引き出せるようになった。 相手が言いたいことをしっかり把握できるようになった。 自分と異なる意見をよく聴くことができるようになった。
		柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する	相手の立場に立って考えられるようになった。 状況に応じたさまざまな異なる方法で対応できるようになった。 異なる文化の思考方法、習慣の違いなどに対応できるようになった。
		状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する	自分の役割を十分理解して取り組めるようになった。 自分の良さを把握し、自分の役割分担を理解している。 他の人の良さを引出し、チーム全体を考え行動できた。
		規律性	社会のルールや人との約束を守る力	状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する	授業や活動時間の使い方の自己管理ができるようになった。 課題の提出など、決められた期限を守った。 社会的なルール、マナーを守って行動できた。
		ストレスコントロール	ストレスの発生源に対応する力	ストレスを感じることがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する	大変な時、仲間の協力などにより、乗り越えようと努力した。 疲れている時や、気持ちが沈んでいる時でも、前向きに授業に望んだ。 自分で感情をコントロールできた。

※評価ランク・基準

5:期待される能力・行動の発揮度が抜群であり、模範となる(発揮度100%)

4:期待される能力・行動がほとんど申し分なく発揮されていた(発揮度80%程度)

3:期待される能力・行動がおおむね発揮されていて問題がなかった(発揮度60~70%)

2:期待される能力・行動が部分的にしか発揮されず、やや問題があった(発揮度30~50%程度)

1:期待される能力・行動が全く発揮されず大いに問題があった(発揮度30%未満)

専門性/知識 ルーブリック評価表

専門的知識 (専門科目／基礎、内容・方法(一部))	観点	項目	1	2	3	4	5	該当する専門解説科目
	A 保育・教育についての理解	保育・教育の意義の理解	専門的な知識が法令や教育要領(指針)等に基づいているか理解している	専門的な知識が法令や教育要領(指針)等に基づいているか理解している	専門的な知識が法令や教育要領(指針)等に基づいているか理解している	専門的な知識が法令や教育要領(指針)等に基づいているか理解している	専門的な知識が法令や教育要領(指針)等に基づいているか理解している	教育学概論、保育者論、保育原理Ⅰ、子ども家庭福祉、子ども家庭支援論、社会福祉、社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱ、保育原理Ⅱ、子育て支援
		該当する科目の目的、施設の特色等や、職員としての責務を理解している		該当する科目の目的、施設の特色等や、職員としての責務を理解している	該当する科目の目的、施設の特色等や、職員としての責務を理解している	該当する科目の目的、施設の特色等や、職員としての責務を理解している	該当する科目の目的、施設の特色等や、職員としての責務を理解している	
	B 子ども、利用者についての理解	子どもの心理的、身体的発達過程や利用者の特性を理解して健康や安全に配慮できる			子どもの発達過程や利用者に対して健康、安全に配慮できる	子どもの発達過程や利用者に対して健康、安全に配慮できる	子どもの発達過程や利用者に対して健康、安全に配慮できる	発達心理学Ⅰ、子ども家庭支援の心理学、特別支援教育論、子どもの理解と援助、教育相談、子どもの保健、子どもの食と栄養、子ども家庭福祉、教育の方法と技術、教育相談、保育原理Ⅱ、発達心理学Ⅱ
	C 保育・教育の指導に関する基礎的な知識	1日の流れを理解し、子どもや利用者とのかわる記録方法を知っている				1日の流れを理解し、子どもや利用者とのかわる記録方法を知っている	1日の流れを理解し、子どもや利用者とのかわる記録方法を知っている	子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと表現、保育内容演習(健康、人間関係、環境、言葉、表現Ⅰ、表現Ⅱ)、保育内容総論、教育課程・保育の計画と評価
		子どもや利用者とかかわる指導計画の立て方を知っている					子どもや利用者とかかわる指導計画を立てられる	

専門性/技能・実践力 ルーブリック評価表

観点	項目	1	2	3	4	5
技能・実践力	法令に基づいた該当する技能に関する作り方を知っている	法令に基づいた該当する技能に関する作り方を知っている	法令に基づいた該当する技能に関する作り方を知っている	法令に基づいた該当する技能に関する作り方を知っている	法令に基づいた該当する技能に関する作り方を知っている	法令に基づいた該当する技能に関する作り方を知っている
	責任感を持って製作し、期限までに完成することができる		責任感を持って製作し、期限までに完成することができる	責任感を持って製作し、期限までに完成することができる	責任感を持って製作し、期限までに完成することができる	責任感を持って製作し、期限までに完成することができる
	他者との協力			製作過程で発見や仲間との協力ができる	製作過程で発見や仲間との協力ができる	製作過程で発見や仲間との協力ができる
	発表の対象者(子どもなど)の発達過程や環境に配慮し工夫して作品を作ったり、演じたりすることができる				発表の対象者(子どもなど)の発達過程や環境に配慮し工夫して作品を作ったり、演じたりすることができる	発表の対象者(子どもなど)の発達過程や環境に配慮し工夫して作品を作ったり、演じたりすることができる
	振り返り・学びへの探求心					発表後に振り返り、課題を見出し、より良い発表について考えることができる

ルーブリック評価表 評価一覧表

※各基準を確認しながら、1～5の該当する数字を書き入れること

評価対象	評価観点	評価者	1年次			2年次			課題・特記事項 ※評価が1または5のときに教員と記入
			前期	後期	全体	前期	後期	全体	
ジェネリック/態度	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	学生							
		教員							
	素直さ・協調性	学生							
		教員							
	意欲・積極性・責任感	学生							
		教員							
	協働性の理解	学生							
		教員							
ジェネリック/社会人基礎力	前に踏み出す力	学生							
		教員							
	考え抜く力	学生							
		教員							
	チームで働く力	学生							
		教員							
専門性/知識	保育・教育についての理解	学生							
		教員							
	子ども、利用者についての理解	学生							
		教員							
	保育・教育の指導に関する基礎的な知識	学生							
		教員							

評価対象	ポートフォリオ(6つ選択)	評価者	
		学生	教員
専門性/技能・実践力	大型紙芝居		
	エプロンシアター		
	パネルシアター		
	ピアノ(弾き歌い)		
	絵本(読み聞かせ)		
	ストーリーテリング		
	ボランティア活動・選択科目		

} うち6つ選択

年度用 保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅱ 成績評価表

実習生		第 学年 学籍番号			氏 名					
施設名称					施設長 印					
					指導者 印					
実習期間		年 月 日() ～ 年 月 日() (合計 日間)								
勤務状況		出勤 日	欠勤 日	遅刻 日	早退 日	備考				
項目	評価の内容	評価上の観点			評価(該当するものの□にチェック)					特記事項 (必要に応じてご記入ください)
					実習性としてかなりの努力を要する	実習生として努力を要する	実習生として適切である	実習生として優れている	実習生として大変優れている	
知識・技能	保育についての理解	・ 保育所の目的・意義を理解している ・ 保育士の役割り、援助や関わり、職業倫理を理解している			1	2	3	4	5	
	子どもの発達理解	・ 子どもの心理的・身体的な発達過程について理解している ・ 子どもの安全や健康状態の把握に努めている			1	2	3	4	5	
	保育環境の理解	・ 保育の環境(1日の流れ)を理解している ・ 保育所保育指針を理解している			1	2	3	4	5	
	保育の観察・記録	・ 子どもとの関わりを日誌などに具体的に記録することができる ・ 日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる			1	2	3	4	5	
	指導計画の理解	・ 子どもの発達や保育所保育指針などの基礎的な知識を基に指導計画の立て方を理解している			1	2	3	4	5	
態度	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	・ 明るく元気に挨拶し、適切な言葉で対応することができる ・ 礼儀をわきまえて行動できる ・ 保育士として、清潔で動きやすい服装である			1	2	3	4	5	
	素直さ・協調性	・ 他者の言うことを素直に聞き、指導に従うことができる			1	2	3	4	5	
	意欲・積極性	・ わからないことを積極的に質問することができる ・ 指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる ・ 積極的に子どもと関わろうとしている			1	2	3	4	5	
	責任感	・ 計画的に行動し、提出物などの期限を守れる ・ 与えられた役割を期限までにきちんとこなすことができる			1	2	3	4	5	
	協働性の理解	・ 自分勝手に判断せず、わからないことは指導者に助言を求めている ・ 報告、連絡、相談を必要に応じてできる			1	2	3	4	5	
実践力	保育実践	・ 教材を作成することができる ※ ・ 指導計画案を基に子どもを指導することができる ※ ・ 自己の課題を考察し、記録できる			1	2	3	4	5	
	学びへの探求心	・ 多様な課題を認識できる ・ 指導者の助言に基づき、学びを深めている ・ 保護者や地域との連携を理解している ※			1	2	3	4	5	
総合 所見								総合評価(該当するものに○)	実習生として	
									5 非常に優れている	
									4 優れている	
									3 適切である	
									2 努力を要する	
									1 成果が認められない	

※の項目は、保育実習Ⅰの評価には、含めない。

保育実習(保育所) ルーブリック評価表

新観点		項目	評 価 内 容										
			0(0)		Ⅰ (25)		Ⅱ (50)		Ⅲ (75)		Ⅳ (100)		
①知識・技能	①保育についての理解	保育所の理解 (意義・理念・保育の歴史・社会的・制度的・経営的理解等) 保育の意義	保育に関する理解が全般的に不足している		1保育所の意義や役割・職務内容を理解している		1保育所の意義や役割・職務内容を理解している		1保育所の意義や役割・職務内容を理解している		1保育所の意義や役割・職務内容を理解している		
							2保育に関する社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		2保育に関する社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		2保育に関する社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		
									3保育に関する理念、歴史、思想に関する基礎理論・知識を習得している		3保育に関する理念、歴史、思想に関する基礎理論・知識を習得している		
		保育士としての職業倫理							4保育士としての守秘義務や職業倫理を理解している				
	②子どもについての理解	子どもの発達の理解	子どもに関する理解が全般的に不足している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		
							2子どもの心理的な発達の基礎知識を理解している		2子どもの心理的な発達の基礎知識を理解している		2子どもの心理的な発達の基礎知識を理解している		
		子どもの健康・安全への配慮							3子どもの健康や安全に配慮し個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を習得している		3子どもの健康や安全に配慮し個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を習得している		
											4いじめ、障害児保育などの子どもが抱える問題について理解している		
	⑤領域・保育に関する基礎知識・技能	一日の流れの理解 (保育所保育の理解)	領域・保育に関する基礎知識・技能が全般的に不足している		1保育所の1日の流れを理解している		1保育所の1日の流れを理解している		1保育所の1日の流れを理解している		1保育所の1日の流れを理解している		
							2保育所保育指針を理解している		2保育所保育指針を理解している		2保育所保育指針を理解している		
		1日の流れや気づいた点を記録することができる							31日の流れや気づいた点を誤字脱字や文章に誤りなく記録することができる		31日の流れや気づいた点を誤字脱字や文章に誤りなく記録することができる		
		保育計画・指導計画の理解									4保育課程の編成に関する基礎的理論・知識のもとに指導計画を作成する方法を知っている		
②ジェネリック /態度	③他者との協力	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	他者との協力に関する理解が全般的に不足している		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		
		素直さ・協調性					2素直に他者の意見やアドバイスを耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる		2素直に他者の意見やアドバイスを耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる		2素直に他者の意見やアドバイスを耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる		
		意欲・積極性・責任感							3率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内にきちんとこなしながら保育活動に取り組むことができる		3率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内にきちんとこなしながら保育活動に取り組むことができる		
		協働性の理解							4集団において他の保育士との協働性を理解して報告、連絡、相談ができ、チームワークで課題に取り組むことができる				
	④コミュニケーション	子どもとのかかわり(発達段階に応じた対応・公平・受容的な態度)	子どもとのコミュニケーションの理解が全般的に不足している		1保育士として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1保育士として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1保育士として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1保育士として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		
							2子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる		2子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる		2子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる		
							3子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる		3子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる				
		明朗さ									4個々の子どもと対話をしながら、多様な子どもにも配慮し、クラス全体をまとめることができる		
	③実践力	⑥保育実践	保育技術の習得 (教材分析・構成力)・展開力・表現技術・クラス経営力等)	保育技術の習得 (教材分析・構成力・展開力・表現技術・クラス経営力等)の理解や実践力が全般的に不足している		1教材を分析することができ、遊具や教材・教具を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる	
								2教材研究を生かした保育の活動を構想し、子どもの発達や環境に合わせた指導案としてまとめることができる		2教材研究を生かした保育の活動を構想し、子どもの発達や環境に合わせた指導案としてまとめることができる		2教材研究を生かした保育の活動を構想し、子どもの発達や環境に合わせた指導案としてまとめることができる	
										3多様な子どもの反応を生かした指導計画を、クラス全体を見まわして展開することができる		3多様な子どもの反応を生かした指導計画を、クラス全体を見まわして展開することができる	
												4自己の課題に気が付くことができ、日誌などの記録に基づく考察ができる	
⑦課題探求		課題の認識	保育に関する新たな課題に関心をあまり持てない。 自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢が不足している		1多様な子どもの保育に関する新たな課題に関心がある		1多様な子どもの保育に関する新たな課題に関心がある		1多様な子どもの保育に関する新たな課題に関心がある		1多様な子どもの保育に関する新たな課題に関心がある		
							2多様な保育課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		2多様な保育課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		2多様な保育課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		
		課題解決能力							3保護者や地域と連携して課題に対して適切に協力ができる		3保護者や地域と連携して課題に対して適切に協力ができる		
		課題探究心									4課題に対して将来に向けて学び続ける姿勢を持っている		

年度用

保育実習Ⅰ（施設）

成績評価表

実習生		第	学年	学籍番号		氏 名				
施設名称					指導者					印
					指導者					印
実習期間		年 月 日() ～ 年 月 日()								
勤務状況		出勤	欠勤	遅刻	早退	備考				
		日	日	日	日					
項目	評価の内容	評価上の観点			評価(該当するものの□にチェック)					特記事項 (必要に応じてご記入ください)
					実習性としてかなりの努力を要する	実習生として努力を要する	実習生として適切である	実習生として優れている	実習生として大変優れている	
知識・技能	保育についての理解	・施設の目的・意義を理解している ・保育士（支援者）の役割り、援助や関わり、職業倫理を理解している			1	2	3	4	5	
	子ども（利用児者）の発達理解	・子ども（利用児者）の心理的・身体的な発達過程について理解している ・子ども（利用児者）の安全や健康状態の把握に努めている			1	2	3	4	5	
	保育（支援）環境の理解	・保育（支援）の環境(1日の流れ)を理解している ・各種関係法令等を理解している			1	2	3	4	5	
	保育（支援）の観察・記録	・子ども（利用児者）との関わりを日誌に具体的に記録することができる ・日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる			1	2	3	4	5	
	指導計画（支援計画）の理解	・子ども（利用児者）の発達や各種関係法令等の基礎的な知識を基に指導計画（支援計画）の立て方を理解している			1	2	3	4	5	
態度	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	・明るく元気に挨拶し、適切な言葉で対応することができる ・礼儀をわきまえて行動できる ・保育士（支援者）として、清潔で動きやすい服装である			1	2	3	4	5	
	素直さ・協調性	・他者の言うことを素直に聞き、指導に従うことができる			1	2	3	4	5	
	意欲・積極性	・わからないことを積極的に質問することができる ・指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる ・積極的に子ども（利用児者）と関わろうとしている			1	2	3	4	5	
	責任感	・計画的に行動し、提出物などの期限を守れる ・与えられた役割を期限までにきちんとこなすことができる			1	2	3	4	5	
	協働性の理解	・自分勝手に判断せず、わからないことは指導者に助言を求めている ・報告、連絡、相談を必要に応じてできる			1	2	3	4	5	
実践力	保育（支援）実践	・教材を作成することができる ※ ・指導計画案を基に子どもを指導することができる ※ ・自己の課題を考察し、記録できる			1	2	3	4	5	
	学びへの探求心	・多様な課題を認識できる ・指導者の助言に基づき、学びを深めている ・保護者や地域との連携を理解している ※			1	2	3	4	5	
総合 所見								総合評価(該当するものに○)	実習生として	
									5	非常に優れている
									4	優れている
									3	適切である
									2	努力を要する
									1	成果が認められない

※ …… 保育実習Ⅰ（施設）の評価には、含めない。

保育実習(施設) ルーブリック評価表

新観点		項目	評 価 内 容									
			0(0)		Ⅰ (25)		Ⅱ (50)		Ⅲ (75)		Ⅳ (100)	
①知識・技能	①保育についての理解	施設の理解 (意義・理念・支援の歴史・社会的・制度的・経営的理解等)、支援の意義	保育に関する理解が全般的に不足している		1施設の意義や役割・職務内容を理解している		1施設の意義や役割・職務内容を理解している		1施設の意義や役割・職務内容を理解している		1施設の意義や役割・職務内容を理解している	
							2施設に関する社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		2施設に関する社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		2施設に関する社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している	
									3施設に関する理念、歴史、思想に関する基礎理論・知識を習得している		3施設に関する理念、歴史、思想に関する基礎理論・知識を習得している	
		保育士（支援者）としての職業倫理									4保育士（支援者）としての守秘義務や職業倫理を理解している	
	②子ども（利用児者）についての理解	子ども（利用児者）の発達理解	子ども（利用児者）に関する理解が全般的に不足している		1子ども（利用児者）の身体的な発達の基礎知識を理解している		1子ども（利用児者）の身体的な発達の基礎知識を理解している		1子ども（利用児者）の身体的な発達の基礎知識を理解している		1子ども（利用児者）の身体的な発達の基礎知識を理解している	
							2子ども（利用児者）の心理的な発達の基礎知識を理解している		2子ども（利用児者）の心理的な発達の基礎知識を理解している		2子ども（利用児者）の心理的な発達の基礎知識を理解している	
		子ども（利用児者）の健康・安全への配慮							3子ども（利用児者）の健康や安全に配慮し個々の子ども（対象者）の特性や状況に応じた対応方法の習得している		3子ども（利用児者）の健康や安全に配慮し個々の子ども（対象者）の特性や状況に応じた対応方法の習得している	
											4いじめ、障害児保育などの子ども（利用児者）が抱える問題について理解している	
	⑤保育（支援）に関する基礎知識・技能	一日の流れの理解 (施設支援の理解)	領域・保育に関する基礎知識・技能が全般的に不足している		1施設の1日の流れを理解している		1施設の1日の流れを理解している		1施設の1日の流れを理解している		1施設の1日の流れを理解している	
							2各種関係法令を理解している		2各種関係法令を理解している		2各種関係法令を理解している	
		1日の流れや気づいた点を記録することができる							3 1日の流れや気づいた点を誤字脱字や文章に誤りなく記録することができる		3 1日の流れや気づいた点を誤字脱字や文章に誤りなく記録することができる	
		支援計画の理解									4支援計画等に関する基礎的理論・知識のもとに計画を作成する方法を知っている	
②ジェネリック /態度	③他者との協力	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	他者との協力に関する理解が全般的に不足している		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる	
		素直さ・協調性					2素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる		2素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる		2素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる	
		意欲・積極性・責任感							3率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内にきちんとこなしながら保育活動に取り組むことができる		3率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内にきちんとこなしながら保育活動に取り組むことができる	
		協働性の理解									4集団において他の支援者との協働性を理解して報告、連絡、相談ができ、チームワークで課題に取り組むことができる	
	④コミュニケーション	子ども（利用児者）とのかかわり (状態に応じた対応・公平・受容的な態度)	子ども（利用児者）とのコミュニケーションの理解が全般的に不足している		1支援者として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1支援者として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1支援者として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1支援者として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる	
							2子ども（利用児者）の発達段階を考慮して、適切に接することができる		2子ども（利用児者）の発達段階を考慮して、適切に接することができる		2子ども（利用児者）の発達段階を考慮して、適切に接することができる	
									3子ども（利用児者）の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる		3子ども（利用児者）の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる	
		明朗さ									4個々の子ども（利用児者）と対話をしながら、多様な子ども（利用児者）にも配慮し、グループ全体をまとめることができる	
③実践力	⑥保育（支援）実践	保育技術の習得 (教材分析・構成力・展開力・表現技術・クラス経営力等)	保育技術の習得 (教材分析・構成力・展開力・表現技術・クラス経営力等)の理解や実践力が全般的に不足している		1教材を分析することができ、遊具や教材・教具を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる	
							2教材研究を生かした保育・支援の活動を構想し、子ども（利用児者）の発達や状態、環境に合わせた指導案としてまとめることができる		2教材研究を生かした保育・支援の活動を構想し、子ども（利用児者）の発達や状態、環境に合わせた指導案としてまとめることができる		2教材研究を生かした保育・支援の活動を構想し、子ども（利用児者）の発達や状態、環境に合わせた指導案としてまとめることができる	
									3多様な子ども（利用児者）の反応を生かした指導計画を、グループ全体を見まわして展開することができる		3多様な子ども（利用児者）の反応を生かした指導計画を、グループ全体を見まわして展開することができる	
											4自己の課題に気が付くことができ、日誌などの記録に基づく考察ができる	
	⑦課題探求	課題の認識	保育に関する新たな課題に関心をあまり持てない。 自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢が不足している		1多様な子ども（利用児者）の保育・支援に関する新たな課題に関心がある		1多様な子ども（利用児者）の保育・支援に関する新たな課題に関心がある		1多様な子ども（利用児者）の保育・支援に関する新たな課題に関心がある		1多様な子ども（利用児者）の保育・支援に関する新たな課題に関心がある	
							2多様な保育・支援課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		2多様な保育・支援課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		2多様な保育・支援課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している	
		課題解決能力							3保護者や地域と連携して課題に対して適切に協力ができる		3保護者や地域と連携して課題に対して適切に協力ができる	
		課題探究心									4課題に対して将来に向けて学び続ける姿勢を持っている	

年度用 保育実習Ⅲ（児童館） 成績評価表

実習生		第 学年		学籍番号		氏 名					
施設名称				施設長				印			
				指導者				印			
実習期間		年 月 日() ～ 年 月 日() (合計 日間)									
勤務状況		出勤 日	欠勤 日	遅刻 日	早退 日	備考					
項目	評価の内容	評価上の観点				評価(該当するものの□にチェック)					特記事項 (必要に応じてご記入ください)
						実習性としてかなりの努力を要する	実習生として努力を要する	実習生として適切である	実習生として優れている	実習生として大変優れている	
知識・技能	保育についての理解	・ 児童館の目的・意義を理解している ・ 保育士の役割り、援助や関わり、職業倫理を理解している				1	2	3	4	5	
	子どもの発達理解	・ 子どもの心理的・身体的な発達過程について理解している ・ 子どもの安全や健康状態の把握に努めている				1	2	3	4	5	
	保育環境の理解	・ 児童館の環境(1日の流れ)を理解している ・ 児童福祉法等を理解している				1	2	3	4	5	
	保育の観察・記録	・ 子どもとの関わりを日誌などに具体的に記録することができる ・ 日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる				1	2	3	4	5	
	指導計画の理解	・ 子どもの発達や児童福祉法等の基礎的な知識を基に指導計画の立て方を理解している				1	2	3	4	5	
態度	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	・ 明るく元気に挨拶し、適切な言葉で対応することができる ・ 礼儀をわきまえて行動できる ・ 保育士として、清潔で動きやすい服装である				1	2	3	4	5	
	素直さ・協調性	・ 他者の言うことを素直に聞き、指導に従うことができる				1	2	3	4	5	
	意欲・積極性	・ わからないことを積極的に質問することができる ・ 指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる ・ 積極的に子どもと関わろうとしている				1	2	3	4	5	
	責任感	・ 計画的に行動し、提出物などの期限を守る ・ 与えられた役割を期限までにきちんとこなすことができる				1	2	3	4	5	
	協働性の理解	・ 自分勝手に判断せず、わからないことは指導者に助言を求めている ・ 報告、連絡、相談を必要に応じてできる				1	2	3	4	5	
実践力	保育実践	・ 教材を作成することができる ※ ・ 指導計画案を基に子どもを指導することができる ※ ・ 自己の課題を考察し、記録できる				1	2	3	4	5	
	学びへの探求心	・ 多様な課題を認識できる ・ 指導者の助言に基づき、学びを深めている ・ 保護者や地域との連携を理解している ※				1	2	3	4	5	
総合 所見									総合評価(該当するものに○)	実習生として	
										5	非常に優れている
										4	優れている
										3	適切である
										2	努力を要する
										1	成果が認められない

保育実習(児童館) ルーブリック評価表

新観点		項目	評 価 内 容										
			0(0)		Ⅰ (25)		Ⅱ (50)		Ⅲ (75)		Ⅳ (100)		
①知識・技能	①保育についての理解	児童館の理解 (意義・理念・保育の歴史・社会的・制度的・経営的理解等) 保育の意義	保育に関する理解が全般的に不足している		1児童館の意義や役割・職務内容を理解している		1児童館の意義や役割・職務内容を理解している		1児童館の意義や役割・職務内容を理解している		1児童館の意義や役割・職務内容を理解している		
							2保育に関する社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		2保育に関する社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		2保育に関する社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		
									3保育に関する理念、歴史、思想に関する基礎理論・知識を習得している		3保育に関する理念、歴史、思想に関する基礎理論・知識を習得している		
		保育士としての職業倫理							4保育士としての守秘義務や職業倫理を理解している				
	②子どもについての理解	子どもの発達の理解	子どもに関する理解が全般的に不足している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		
							2子どもの心理的な発達の基礎知識を理解している		2子どもの心理的な発達の基礎知識を理解している		2子どもの心理的な発達の基礎知識を理解している		
		子どもの健康・安全への配慮							3子どもの健康や安全に配慮し個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を習得している		3子どもの健康や安全に配慮し個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を習得している		
											4いじめ、障害児保育などの子どもが抱える問題について理解している		
	⑤領域・保育に関する基礎知識・技能	一日の流れの理解 (児童館保育の理解)	領域・保育に関する基礎知識・技能が全般的に不足している		1児童館の1日の流れを理解している		1児童館の1日の流れを理解している		1児童館の1日の流れを理解している		1児童館の1日の流れを理解している		
							2児童福祉法等を理解している		2児童福祉法等を理解している		2児童福祉法等を理解している		
		1日の流れや気づいた点を記録することができる							31日の流れや気づいた点を誤字脱字や文章に誤りなく記録することができる		31日の流れや気づいた点を誤字脱字や文章に誤りなく記録することができる		
		保育計画・指導計画の理解									4保育課程の編成に関する基礎的理論・知識のもとに指導計画を作成する方法を知っている		
②ジェネリック /態度	③他者との協力	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	他者との協力に関する理解が全般的に不足している		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		
		素直さ・協調性					2素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる		2素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる		2素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる		
		意欲・積極性・責任感							3率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内にきちんとこなしながら保育活動に取り組むことができる		3率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内にきちんとこなしながら保育活動に取り組むことができる		
		協働性の理解									4集団において他の保育士との協働性を理解して報告、連絡、相談ができ、チームワークで課題に取り組むことができる		
	④コミュニケーション	子どもとのかかわり(発達段階に応じた対応・公平・受容的な態度)	子どもとのコミュニケーションの理解が全般的に不足している		1保育士として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1保育士として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1保育士として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1保育士として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		
							2子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる		2子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる		2子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる		
									3子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる		3子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる		
		明朗さ									4個々の子どもと対話をしながら、多様な子どもにも配慮し、クラス全体をまとめることができる		
	③実践力	⑥保育実践	保育技術の習得 (教材分析・構成力)・展開力・表現技術・クラス経営力等)	保育技術の習得 (教材分析・構成力・展開力・表現技術・クラス経営力等)の理解や実践力が全般的に不足している		1教材を分析することができ、遊具や教材・教具を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる	
								2教材研究を生かした保育の活動を構想し、子どもの発達や環境に合わせた指導案としてまとめることができる		2教材研究を生かした保育の活動を構想し、子どもの発達や環境に合わせた指導案としてまとめることができる		2教材研究を生かした保育の活動を構想し、子どもの発達や環境に合わせた指導案としてまとめることができる	
										3多様な子どもの反応を生かした指導計画を、クラス全体を見まわして展開することができる		3多様な子どもの反応を生かした指導計画を、クラス全体を見まわして展開することができる	
												4自己の課題に気が付くことができ、日誌などの記録に基づく考察ができる	
⑦課題探求		課題の認識	保育に関する新たな課題に関心をあまり持てない。 自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢が不足している		1多様な子どもの保育に関する新たな課題に関心がある		1多様な子どもの保育に関する新たな課題に関心がある		1多様な子どもの保育に関する新たな課題に関心がある		1多様な子どもの保育に関する新たな課題に関心がある		
							2多様な保育課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		2多様な保育課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		2多様な保育課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		
		課題解決能力							3保護者や地域と連携して課題に対して適切に協力ができる		3保護者や地域と連携して課題に対して適切に協力ができる		
		課題探究心									4課題に対して将来に向けて学び続ける姿勢を持っている		

年度用 教育実習 成績評価表

実習生		第 学年 学籍番号				氏 名				
施設名称						園長 印				
						指導者 印				
実習期間		年 月 日() ～ 年 月 日() (合計 日間)								
勤務状況		出勤 日	欠勤 日	遅刻 日	早退 日	備考				
項目	評価の内容	評価上の観点			評価(該当するものの□にチェック)					特記事項 (必要に応じてご記入ください)
					実習性としてかなりの努力を要する	実習生として努力を要する	実習生として適切である	実習生として優れている	実習生として大変優れている	
知識・技能	教育についての理解	・教育の目的・意義を理解している ・教師の役割り、援助や関わり、職業倫理を理解している			1	2	3	4	5	
	子どもの発達理解	・子どもの心理的・身体的な発達過程について理解している ・子どもの安全や健康状態の把握に努めている			1	2	3	4	5	
	教育環境の理解	・教育の環境(1日の流れ)を理解している ・幼稚園教育要領を理解している			1	2	3	4	5	
	教育の観察・記録	・子どもとの関わりを日誌などに具体的に記録することができる ・日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる			1	2	3	4	5	
	指導計画の理解	・子どもの発達や幼稚園教育要領などの基礎的な知識を基に指導計画の立て方を理解している			1	2	3	4	5	
態度	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	・明るく元気に挨拶ができ、適切な言葉で対応できる ・礼儀をわきまえて行動できる ・教師として、清潔で動きやすい服装である			1	2	3	4	5	
	素直さ・協調性	・他者の言うことを素直に聞き、指導に従うことができる			1	2	3	4	5	
	意欲・積極性	・わからないことを積極的に質問することができる ・指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる ・積極的に子どもと関わろうとしている			1	2	3	4	5	
	責任感	・計画的に行動し、提出物などの期限を守る ・与えられた役割を期限までにきちんとこなすことができる			1	2	3	4	5	
	協働性の理解	・自分勝手に判断せず、わからないことは指導者に助言を求めている ・報告、連絡、相談を必要に応じてできる			1	2	3	4	5	
実践力	教育実践	・教材を作製することができる ・指導計画案をもとに子どもを指導することができる ・自己の課題を考察し、記録できる			1	2	3	4	5	
	学びへの探求心	・多様な課題を認識できる ・指導者の助言に基づき、学びを深めている ・保護者や地域との連携を理解している			1	2	3	4	5	
総合所見								総合評価(該当するものに○)	実習生として	
									5	非常に優れている
									4	優れている
									3	適切である
									2	努力を要する
									1	成果が認められない

教育実習(幼稚園) ルーブリック評価表

新観点		項目	評 価 内 容												
			0(0)		Ⅰ (25)		Ⅱ (50)		Ⅲ (75)		Ⅳ(100)				
①知識・技能	①教育についての理解	幼稚園の理解 (意義・理念・教育の歴史・社会的・制度的・経営的理解等) 教育の意義	幼児教育に関する理解が全般的に不足している			1教育の意義や役割・職務内容を理解している		1教育の意義や役割・職務内容を理解している		1教育の意義や役割・職務内容を理解している		1教育の意義や役割・職務内容を理解している			
								2教育の社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		3教育に関する理念、歴史、思想に関する基礎理論・知識を習得をしている		2教育の社会的・経営的に必要な基礎理論・知識を習得している		3教育に関する理念、歴史、思想に関する基礎理論・知識を習得をしている	
															4教諭としての守秘義務や職業倫理を理解している
		教諭としての職業倫理													
	②子どもについての理解	子どもの発達の理解	子どもに関する理解が全般的に不足している			1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している		1子どもの身体的な発達の基礎知識を理解している			
								2子どもの心理的な発達の基礎知識を理解している		3子どもの健康や安全に配慮し個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を習得している		2子どもの心理的な発達の基礎知識を理解している		3子どもの健康や安全に配慮し個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を習得している	
		子どもの健康・安全への配慮													
		③領域・教育課程に関する基礎知識・技能				一日の流れの理解 (幼稚園教育の理解)		領域・教育課程に関する基礎知識・技能が全般的に不足している						1幼稚園の1日の流れを理解している	
			2幼稚園教育要領を理解している	3 1 日の流れや気づいた点を誤字や文章に誤りなく記録することができる	2幼稚園教育要領を理解している		3 1 日の流れや気づいた点を誤字や文章に誤りなく記録することができる								
	1 日の流れや気づいた点を記録することができる										3教育課程の編成に関する基礎的理論・知識のもとに指導計画を作成する方法を知っている				
	教育計画・指導計画の理解														
	②ジェネリック /態度	④他者との協力	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	他者との協力に関する理解が全般的に不足している			1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		1明るく元気に挨拶ができ、清潔で動きやすい服装であり、適切な言葉で対応し、礼儀をわきまえて行動できる		
素直さ・協調性			2素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる				3率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内にきちんとこなしながら教育活動に取り組むことができる		2素直に他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得られて課題に取り組むことができる		3率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を期限内にきちんとこなしながら教育活動に取り組むことができる				
意欲・積極性・責任感															
協働性の理解															
⑤コミュニケーション		子どもとのかかわり (発達段階に応じた対応・公平・受容的な態度)	子どもとのコミュニケーションの理解が全般的に不足している			1教師として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1教師として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1教師として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる		1教師として明るさを大切にしながら、子どもと向き合うことができる			
								2子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる		3子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる		2子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる		3子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる	
		明朗さ													
③実践力		⑥教育実践	教育技術の習得 (教材分析・構成力・展開力・表現技術・クラス経営力等)	教育技術の習得 (教材分析・構成力・展開力・表現技術・クラス経営力等)の理解や実践力が全般的に不足している			1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		1教材を分析することができ、遊具や教材を作製することができる		
									2教材研究を生かした教育の活動を構想し、子どもの発達や環境に合わせた指導案としてまとめることができる		3多様な子どもの反応を生かした指導計画を、クラス全体を見まわして展開することができる		2教材研究を生かした教育の活動を構想し、子どもの発達や環境に合わせた指導案としてまとめることができる		3多様な子どもの反応を生かした指導計画を、クラス全体を見まわして展開することができる
	⑦課題探求	課題の認識	教育や幼児教育に関する新たな課題に関心をあまり持てない。 自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢が不足している			1多様な子どもの教育に関する新たな課題に関心がある		1多様な子どもの教育に関する新たな課題に関心がある		1多様な子どもの教育に関する新たな課題に関心がある		1多様な子どもの教育に関する新たな課題に関心がある			
								2多様な教育課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		3保護者や地域と連携して課題に対して適切に協力ができる		2多様な教育課題に対する自己の課題を自分で明確に認識している		3保護者や地域と連携して課題に対して適切に協力ができる	
		課題解決能力													
		課題探究心													

「各授業と実習との関連性について」(2021年度入学生)

時 期		前期	夏季休業	後期	冬季休業	春季休業
1 年 次	実習		1日見学(保育所)一時中断 ○実習段階 見学実習 ○ねらい	保育実習Ⅰ(保育所)2日間 ○実習段階 見学・観察・参加実習 ○ねらい 職員の職務、施設の様子、子どもの様子、日誌(1日の流 体験実習(施設)3日間一時中断 ○実習段階 見学・観察・参加実習 ○ねらい	1日見学(幼稚園)1日間 ○実習段階 見学・観察・参加実習 ○ねらい 1日の様子・教諭の様子・保育技術(指導案作成	保育実習Ⅰ(保育所)8日間 ○実習段階 見学・観察・参加実習 ○ねらい 職員の職務・施設の理解、子どもの理解、日誌 (1日の流れ+気付き+実習目標とねらいの設 定) +α(保育技術(絵本・紙芝居・エプロン 保育実習Ⅰ(施設)10日間 ※1 ○実習段階 見学・観察・参加実習 ○ねらい
	保育実習指導Ⅰ(保育所) 1年次通年	○オリエンテーション、実習開始:電話、あいさつ、歌謡 ○実習日誌:ねらい、子どもの様子 ○マナー(身だしなみ、健康管理他) ○導入の役割(簡単なグループ発表)	○自己紹介グッズ製作の課題	○自己紹介を兼ねた実習先での挨拶の仕方、礼状の書き方 ○実習日誌:10月実習日誌の確認 ○10月実習終了後の実習目標の再設定 ○10月実習終了後の課題レポート確認 ○10月実習振り返りの個人面談		○実習後(2.3月)授業を設定:2月実習事後指導 ○2月実習後アンケート、礼状作成指導 ○パネルシアター製作の課題 ○2月実習振り返りの個人面談 ○2月実習終了後の課題レポート確認
	保育実習指導Ⅰ(施設) 1年次後期～2年次前期			○児童福祉施設の理解 ○保育実習Ⅰ(施設)の意義 ○実習の心構え ○社会的マナー ○プライバシーと守秘義務 ○実習先別の自己学習、グループディスカッション、発表 ○個人調査書の書き方 ○巡回地区の書き方 ○実習目標の設定 ○実習日誌の書き方(体験実習事前指導・体験実習事後指導) ○オリエンテーション事前指導 ○実習終了後の課題レポート確認		○2～3月派遣学生:実習派遣に向けた口頭試問
	保育実習指導Ⅱ 2年次通年					○保育実習Ⅱ、Ⅲ選択希望調査 保育実習Ⅱ実習先開拓指導
	保育実習指導Ⅲ 2年次通年					
	教育実習 (含事前事後指導) 1年次後期～2年次前期		○エプロンシアター製作:夏休み課題 ○実習先開拓:電話、挨拶、歌謡	○エプロンシアター実演:(各自1回発表) ○指導案(細案:一日):一日の流れを理解、一日の指導案作成(添削指導) ○模擬授業(主な活動):(各自1回発表)		○実習目標:春休み課題:実習目標の設定、指導案作成(一日、部分)
	上記以外の授業	●実習に向けて ○指導案添削指導(細案:初級):保育内容総論 ○教材研究:子どもと表現(音楽・造形)/保育技術研究Ⅰ/入学前教育(折り紙 20種類) ○ピアノ:基礎技能(器楽) ○模擬授業:保育内容総論(グループで1回発表) ●保育者養成 ○子どもとのかかわり方:子どもと健康/子どもと人間関係/子どもと環境/子ど もの保健/発達心理学Ⅰ/子どもと言葉/子どもと表現 ○保育教材、児童文化財(紙芝居、絵本、パネルシアター、エプロンシアター、 ペープサート):保育内容総論/子どもと表現/保育技術研究Ⅰ ○文章表現・漢字練習:日本語表現 ○発達:発達心理学Ⅰ ○教育の基本的考え方・指導法:保育原理Ⅰ/保育内容総論 ○法律・制度:保育原理Ⅰ/保育者論 ○教育・保育計画:保育原理Ⅰ/保育者論/保育内容総論		●実習に向けて ○指導案添削指導:(細案:一日の流れ):教育実習指導/教育の方法と技術 ○教材研究:保育内容総論(健康)/保育内容演習(言葉)/保育内容演習(言葉) ○ピアノ:基礎技能(器楽) ○模擬授業:教育実習指導(各自1回発表) ●保育者養成 ○子どもとのかかわり方:乳児保育Ⅰ/保育内容演習(環境)/保育内容演習(人間関係) /保育内容演習(健康)/保育内容演習(表現Ⅰ)/保育内容演習(言葉)/保育内容演習 ○保育教材、児童文化財(紙芝居、絵本、パネルシアター、エプロンシアター、ペー プサート):保育内容演習(表現Ⅱ)/教育の方法と技術/保育技術研究Ⅰ ○発達:子どもの理解と援助/保育内容演習(環境)/保育内容演習(人間関係)/保育内 容演習(健康)/保育内容演習(表現Ⅰ)/保育内容演習(言葉)/保育内容演習(表現Ⅱ) ○教育の基本的考え方・指導法:教育学概論/教育課程・保育の計画と評価 ○法律・制度:社会福祉/教育学概論/教育課程・保育の計画と評価 ○教育・保育計画:教育学概論/教育課程・保育の計画と評価	●実習に向けて ○大型紙芝居製作:保育内容演習(表現Ⅱ)	
	学習成果の測定 (知識・技能・実践力・シ ェネリックスキルをルーブリ ック評価表で測定)	ジェネリック・スキル/態度(1年前期) ジェネリック・スキル/社会人基礎力(1年前期)		専門性/知識(1年生前期) 専門性/技能・実践力(エプロンシアター、大型紙芝居、ピアノ、選択科目) ジェネリック・スキル/態度(1年後期・1年全体) ジェネリック・スキル/社会人基礎力(1年後期・1年全体)		

時 期		前期	夏季休業	後期	冬季休業	春季休業
2 年 次	実習	教育実習(幼稚園)3週間 ○実習段階 見学・観察・参加、責任実習 ○ねらい 幼稚園の役割・機能の理解、子どもの理解、幼稚園教諭 の理解。指導技術の習得、実践。指導計画(日案)の理	保育実習Ⅰ(施設)10日間 ※1 ○実習段階 見学・観察・参加実習 ○ねらい 保育実習Ⅲ10日間 ※2 ○実習段階 見学・観察・参加・責任実習 ○ねらい 児童館の役割・機能の理解、子どもの理解、児童 厚生指導員の理解。指導技術の習得、実践。指	保育実習Ⅱ10日間 ○実習段階 見学・観察・参加・責任実習 ○ねらい 保育所の役割・機能の理解、子どもの理解、保育士の理解。	保育実習Ⅰ(施設)10日間 ※1 ○実習段階 見学・観察・参加実習 ○ねらい 保育実習Ⅲ10日間 ※2 ○実習段階 見学・観察・参加・責任実習 ○ねらい 児童館の役割・機能の理解、子どもの理解、児童 厚生指導員の理解。指導技術の習得、実践。指	
	保育実習指導Ⅰ(施設) 1年次後期～2年次前期	○実習の心構え ○社会的マナー ○プライバシーと守秘義務 ○実習先別の自己学習、グループディスカッション、発表 ○個人調査書の書き方 ○巡回地区の書き方 ○実習目標の設定 ○実習日誌の書き方(体験実習事前指導・体験実習事後指導) ○オリエンテーション事前指導 ○実習終了後の課題レポート確認 ○2～3月派遣学生実習事後指導:実習後レポート、礼状確認 ○2～3月派遣学生実習事後指導:個別面談		○8月派遣学生実習事後指導:実習後レポート、礼状確認 ○8月派遣学生実習事後指導:個別面談		○12月派遣学生実習事後指導:実習後レポート、礼状確認 ○12月派遣学生実習事後指導:個別面談
	保育実習指導Ⅱ 2年次通年	○オリエンテーション、実習開始:電話、あいさつ、歌謡 ○マナー(身だしなみ、健康管理他) ○パネルシアター実演:(各自1回発表) ○個人調査書、実習目標、巡回地区の確認		○実習事後指導:実習後レポート、礼状確認 ○実習事後指導:個別面談		
	保育実習指導Ⅲ 2年次通年	○オリエンテーション、実習開始:協議のうえ大学が開拓 ○マナー(身だしなみ、健康管理他) ○パネルシアター実演:(各自1回発表) ○児童厚生施設(児童館)の理解 ○保育実習Ⅲの意義 ○実習の心構え ○プライバシーと守秘義務 ○個人調査書、実習目標、巡回地区の確認		○実習事後指導:実習後レポート、礼状確認 ○実習事後指導:個別面談		
	保育・教職実践演習 2年次後期			○学習ポートフォリオの整理 ○履修カルテの整理 ○ポートフォリオ、履修カルテを基に、2年間の学習の軌跡を確認、学習成果への到達と自身 の課題を自覚		
	上記以外の授業	●実習に向けて ○指導案添削指導:(細案:一日の流れ):教育実習指導/教育の方法と技術 ○教材研究:保育技術研究Ⅱ ○ピアノ:基礎技能(器楽) ○模擬授業:教育実習指導(各自1回発表) ●保育者養成 ○子どもとのかかわり方:子ども家庭支援論/子どもの食と栄養/乳児保育Ⅱ ○保育教材、児童文化財(紙芝居、絵本、パネルシアター、エプロンシアター、 ペープサート):乳児保育Ⅱ ○発達:子どもの食と栄養/乳児保育Ⅱ ○教育の基本的考え方・指導法:乳児保育Ⅱ ○法律・制度:子ども家庭支援論/教育相談 ○教育・保育計画:子どもの食と栄養/乳児保育Ⅱ		●実習に向けて ○教材研究:保育技術研究Ⅱ/美術表現 ○ピアノ:基礎技能(器楽) ●保育者養成 ○子どもとのかかわり方:子ども家庭支援の心理学/教育相談/子どもの健康と安 全/特別支援教育論/子育て支援/美術表現 ○保育教材、児童文化財(紙芝居、絵本、パネルシアター、エプロンシアター、 ペープサート):美術表現 ○文章表現・漢字練習: ○発達:子どもの健康と安全/特別支援教育論 ○教育の基本的考え方・指導法:教育相談/特別支援教育論 ○法律・制度:教育相談/特別支援教育論 ○教育・保育計画:特別支援教育論		
	学習成果の測定 (知識・技能・実践力・シ ェネリックスキルをルーブリ ック評価表で測定)	専門性/知識(1年生後期・1年生全体) 専門性/技能・実践力(パネルシアター) ジェネリック・スキル/態度(2年前期) ジェネリック・スキル/社会人基礎力(2年前期)		専門性/知識(2年生前期) ジェネリック・スキル/態度(2年後期・2年全体) ジェネリック・スキル/社会人基礎力(2年後期・2年全体)		専門性/知識(2年生後期・2年生全体)